

2017年8月26日 卵子提供・代理出産で家族をつくる(第四回)

卵子提供・代理出産で家族をつくる

日時：2017年8月26日(土) 13:15-17:00
場所：キャンパスプラザ京都 第三会議室
〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939

- 参加費無料
- 情報交換会(17:00-19:00)への参加は当事者の方のみです。
- 申し込み時にお名前とご連絡先をお知らせください(定員約 35 名)

13:15-14:15 「米国における卵子提供と代理出産」
Molly E. O'Brien, Esq., Law Offices of Molly O'Brien

14:15-15:15 「米国の代理出産-低コストで成功率を最大化する」
Said Daneshmand MD., San Diego Fertility Center

15:30-16:10 「代理出産の現在と卵子提供の真髄」
清水直子 *Shimizu Naoko* (さくらライフセイブアソシエイツ代表取締役)

16:10-16:50 「子どものルーツをどのように伝えるのか」
日比野由利 *Hibino Yuri* (金沢大学医薬保健学総合研究科助教)

17:00-19:00 情報交換会

【申込先】
金沢大学医薬保健研究域医学系
日比野由利
tel. 076-265-2219(2218)
hibino@staff.kanazawa-u.ac.jp



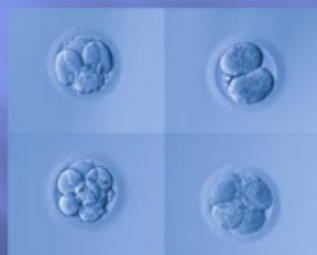
「米国における卵子提供と代理出産」

Molly E. O'Brien, Esq., Law Offices of Molly O'Brien

卵子提供や代理出産を法的側面からサポートしている。これらは米国では契約行為であり、双方の側の権利を守るため、法的専門家の関与が不可欠である。ドナーや代理母の側にも弁護士がつく。卵子提供の契約は、比較的簡易に行われ、双方の権利や義務に関し複雑なことは生じない。米国では匿名でも顕名でも可能である。代理出産はそれよりは複雑である。カリフォルニア州では代理出産は合法である。カリフォルニア州で行われる限り、その契約は保護される。

但しカリフォルニア域外では違法になるケースもあるので代理母は州外に移動できないなど制約がある。経験を積んだ法的専門家が関与し、契約を行えば、多くの問題は解消できるだろう。妊娠出産にはリスクがつきものであり、それによって医療費も大きく増減する。医療保険は必須だが、どのような保険を購入するか、慎重に判断し選択する必要がある。早産や未熟児の誕生は高額な医療費を招く可能性があるため、多胎妊娠とならないよう単一胚移植を勧める。

卵子提供の契約 (続き)



- 卵子には所有権がある
- 採取後、卵子は依頼者の所有となる
- 依頼者は卵子を用いて受精卵をつくる、卵子・受精卵を凍結する、移植する、未使用のものを研究のために提供するなど、自由に処分することができる

代理母のための保険

- 代理母自身の保険
vs. 新たに購入されたもの
- 除外事項
- 保険でカバーされていない医療費

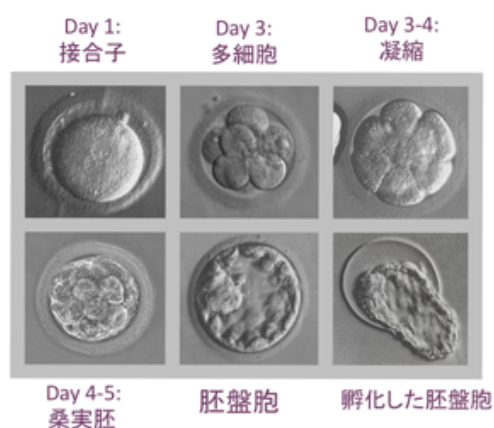


「米国代理出産—低コストで成功率を最大化する」
Said Daneshmand MD., San Diego Fertility Center

体外受精には高額のコストがかかるため、少しでも成功率を高める工夫が必要である。提供卵子を用いるサイクルでは成功率は9割を超えるほど高い。自己卵子を用いるサイクルでは、凍結胚移植となるが、凍結技術の急速な向上により、新鮮胚の場合と成功率は変わらない。着床前遺伝子検査/スクリーニングは、一般に遺伝病の検出や性別選択に用いられるが、遺伝子異常がある胚を検出することによって妊娠率の向上に寄与する。インビトロで複数の受精卵を作成しても、実際には着床に適していない受精卵も多くあり、患者の年齢が高くなるほど、着床しない、あるいは着床してもその後流産となるケースが増える。このため、受精卵の生検は、35歳以上の患者などには有効である。センターでは、成功率の向上に努めているが、成功に至るまでの患者の金銭的な負担は大きい。このため、一定の料金で(受精卵がある限り)追加費用なしで治療が行える保障プランも設けた。



受精卵の成長ステージ



- 受精卵を外見によってグレード分け可能
- 優れたグレードの受精卵がそうでない受精卵に比べて移植される可能性が高い
- 受精卵の重要な特徴の多くが目に見えないため、これは受精卵のグレードに際して考慮されていない
- 見えない特徴の一つとして染色体

「代理出産の現在と卵子提供の真髄」

清水直子

日本では卵子提供はほとんど実施されておらず、代理出産は日本産科婦人科学会の会告によって事実上禁止されている。このため、海外での治療が主要な選択肢となる。新興国での代理出産プログラムは安価であるため、新興国が選ばれるケースも多いが、法的に安定しておらず、現地の状況について常に情報をアップデートする必要がある。国内のメディアは誤った情報を流すことがあるので要注意である。

クライアントの中には、卵子提供が必要なケースと代理出産が必要なケースを混同していることもあり、注意が必要である。卵子提供は、遺伝的には他人の卵子であるが、クライアント自身が妊娠出産するため、その後の育児にスムーズに移行できるケースが多いと感じている。卵子提供に関しては、近年、卵子バンクが進出してきており、今後、大きく変化していくことが予想される。卵子バンクは、ドナーの採卵を待つ必要がなく、すぐにプロセスに入れることなど、利便性が高い反面、質の悪い卵子が含まれていないかどうか、本当にプ

ロフィールの女性の卵子かどうかなど、検証しにくいというリスクが存在するため、注意が必要である。

「子どものルーツをどのように伝えるのか」

日比野由利

精子提供は半世紀以上前からおこなわれ、現在成人となった人々からは、出自を知る権利が提唱されている。これを受けて、出自を知る権利を法制化している国もある。現在では、配偶子提供や代理出産で生まれた事実を子どもに告げることが望ましいとされている。子どもが人生の最初から事実を受け止め、自分の人生を生きていくために告知は欠かせない。子どもが理解できなくとも、できるだけ早い時期から伝え、子どもの成長や理解にあわせて何度も語りかけることが望ましい。子どもが集団生活に入る前に、確かな信頼関係を構築しておけば、子どものアイデンティティは揺らがないだろう。ただし、卵子提供や代理出産によって家族を持つことは、日本社会では極めてマイノリティであり、周囲の人々との関係では難しい問題が残されている。そのような偏見から子どもを守るためには、伝え方に工夫が必要かもしれない。

親へのメッセージ (1)

- ㊦ 子どもができるだけ小さい時から情報を与え始めるとよい。
- ㊦ 子どもの成長にあわせて何度も何度も話すこと。与えられる情報や子どもからの質問は子どもの成長にしたがってより複雑になっていく。
- ㊦ 不妊治療や妊娠、子どもが生まれてきたときの写真などを貼ったスクラップブックを作成し、それらを見せながら語りかけるとよい。
- ㊦ リラックスした態度で子どもに語りかけること。卵子提供について恥ずかしいことであるかのように親がぎこちない態度をとれば、子どもはその方法で生まれてきたことを悪いことのように感じる。
- ㊦ 同じようにして子どもをもった他の家族と交流することやサポートグループに参加することは有効だろう。子どもたち同士も交流をすることで、自分が他の子と違っていると思わなくてすむ。

卵子提供・代理出産で生まれた子どもたちの声 (3)

私たちは“商品”なの?～代理出産で生まれた子どもたちの声～

2016年 05月 25日



<http://azuki0405.exblog.jp>



